

小学生新聞の表記：振り仮名と字種を中心に

設 楽 馨

1. はじめに

通常、新聞は漢字表記に常用漢字、文体に「だ・である体」を用い、中学生以上の識字力、読解力のある読者を対象としているものである。それとは別に、読者を小学生、中学生など限定した新聞が発行されている。本稿では、小学生を読者とする新聞について、その表記を調査し、メディアの特性を検討する。

小学生新聞は、対象となる読者を小学生に限定したもので、それゆえに一般紙との違いがある。小学生新聞と一般紙を並列して精査しなくても、一見するだけで、文字の大きさ、多色刷り、イラストが多い、漢字にひらがなを並列表記していることなど、いくつかの違いが目に入るものと思われる。

また、掲載記事の違いとしては、同じ内容の記事が週または月のなかで繰り返されることがある。教科学習と直結していて、語句として「図工」「サイエンス」「日本史」などの単語を含む見出しが登場することがある。読者は、文章やイラストを投稿するだけでなく、記者として一緒に取材した記事、あるいは、写真入りで登場する記事が掲載される。

1. 1. 調査対象

小学生を読者とする全国紙の3紙、「朝日小学生新聞」¹⁾「毎日小学生新聞」²⁾「読売KODOMO新聞」³⁾を事例に、記事の表記を分析する。この3紙の、2018年6月の1ヶ月間を資料とした。

2018年6月、広い紙幅を取った記事の話題は、森友学園問題、アメリカ・北朝鮮の首脳会談、大阪北部地震、サッカーのワールドカップロシア大会などがある。特に、大阪北部地震とワールドカップは各紙で大きく、また、繰り返して取り上げた。ただし、いわゆる大人向けの新聞とは取り上げる話題が異なる。よって、小学生新聞の中で特殊な記事を資料として選択したと感ずることがあるかもしれない。この点について、前章で触れたとおり、教科学習と直結し、過去の災害やそこからの復興、現在の外交問題を生じさせる歴史的知見、海外で活躍する日本人など、小学生を限定しているからこそ認められる、記事の偏りがあったことを断っておく。

1. 2. 本論の構成

調査や分析に入る前に、小学生新聞が発行される経緯を整理し、2018年現在「小学生新聞」あるいは「子ども新聞」と言われるメディアの特性を述べる。主に、「児童サービス論」のテキストを中心に、図書館情報資源の特性をまとめておく。

その後、表記法として、小学生新聞に特有の、振り仮名について調査する。振り仮名とは、漢字に並列表記するひらがなのことで、活版印刷における大きさの名称から「ルビ」とすることがあるが、本論では「振り仮名」と呼称する。

続いて、日本語の表記法の基本となる字種

として、平仮名・片仮名・漢字の使い分けについて述べる。字種は、新聞社ごとに「用語集」あるいは「用語の手引き」⁴⁾といった用字と用語の本規則となるものが出版されている。しかし、小学生新聞ではそれらと異なる用字が認められる。その用字法と、その用字に関わって書き手の態度についても論じる。字種のなかでは、一般紙に比べて平仮名が多いこと、そのために生じる紙面の印象についても考えてみたい。

2. 小学生新聞とは

小学生新聞の発行が進んだのは、1930年代、アメリカで始まったNewspaper In Education (通常、NIEと省略する) が日本では1985年から日本新聞協会によって提唱されてきたこと、2012年に学習指導要領が変更され、かつ、2012年4月から2016年3月の文部科学省発表の「新・学校図書館図書整備5か年計画」によって、学校教育に新聞が推奨されたことが大きい。こうした流れのなか、2011年に創刊や紙面拡充が進んだ⁵⁾。

NIEは、事業としては日本新聞協会が1996年に基金発足、「新聞提供事業」「研究・PR事業」の推進に取組み、1998年3月2日からは、新たに設立された日本新聞教育文化財団が事業を引き継ぎ、一定の成果を収めた後、2011年3月に新聞協会と合併、現在は新聞協会が推進し、新聞活用の国内状況の把握とPR活動を継続している⁶⁾。

子ども向けの新聞の配布方法は、単一紙として購読料が必要なものと、大人向けの地方紙やブロック紙に折り込まれたもの、学校配布のものがある。紙の大きさは、タブロイド判と、その2倍のブランケット判(大人向けの一般紙が通常、ブランケット判)が一般的

である。文字の大きさは、大人向きより大きい。振り仮名が多い。イラストが豊富で多色刷りである⁵⁾。

3. 表記方法

3. 1. 振り仮名

先にも述べた通り、漢字に並列表記するひらがながある。これを振り仮名とする。振り仮名は、すべての漢字表記に並列するのではない。どのような使用法があるのか詳しく見てみよう。

3. 1. 1. 3回繰り返す場合

まず、毎日小学生新聞にて、2018年6月に3週に分けて3日分に及んで繰り返し掲載された、大阪北部地震(震度6弱の地震で小学校の壁が倒壊し女児1名が犠牲になった)の記事を挙げる。

1) 毎日小学生新聞 2018年6月19日火曜日 (原文は最初の見出し2行以外は縦書き)

<p>おおさか しん ど じゃく 大阪で震度6弱</p> <p>にん し ぼう M6.1 3人死亡</p> <p>へいたお しょうがくせいしたじ 塀倒れ 小学生下敷き</p> <p>にち ごぜん じ ぶん おおさか ふ ちゅうしん 18日午前7時58分ごろ、大阪府を中心 つよ じしん はっせい おおさか きたく おおさか に強い地震が発生し、大阪市北区や大阪 ふ たかつき ひらかた いぼりき みの お かく しん ど 府高槻、枚方、茨木、箕面の各市で震度 6弱を観測しました。気象庁によると、 しんげん ち おおさか ふ ぼく ぶ しんげん ふか やく 震源地は大阪府北部で、震源の深さは約 13キロメートル。地震の規模を示すマグ ニチュード(M)は6.1と推定されてい ます。倒れた塀の下敷きになるなどして しょうがく ねんせい ふく にん し ぼう じん 小学4年生を含む3人が死亡。けが人も あいつ 相次ぎました。(以下、省略)</p>

1)は、地震発生翌日の6月19日に、速報性のある話題として、1面を取りあげている。翌日には、小学校の塀に焦点を当て、国が全国に緊急点検を呼びかけたことを報じた。ただし、塀の点検は地震の話題と同類ではなく、地震を契機に、その後に展開した出来事として、別の話題とみなされる。ここでは、地震そのものの話題に焦点を当て、塀の点検は例示しない。(塀の点検の記事の振り仮名は、見出し、本文ともに振ってある。3. 1. 2. で述べるが、振り仮名が振ってあるということは新出の出来事だと解釈できる。)

次に、毎週土曜日の「NEWS FILE」(6ページと7ページの見開きになっている)において、その週の話題を取り上げるなかでの「大阪で震度6弱」の記事を見ると、2)も3)も「NEWS FILE」であるが、2)は1)とほぼ同様の内容になっている。

2) 毎日小学生新聞 2018年6月23日土曜日
(原文は最初の見出し1行以外は縦書き)

NEWS FILE

大阪で震度6弱

危険な通学路

ブロック塀倒れ小4犠牲に

18日午前7時58分ごろ、大阪府北部を震源とする強い地震が発生、大阪市北区や大阪府高槻、枚方、茨木、箕面の各市で震度6弱を観測した。大都市で、多くの人々が通学・通勤する時間帯に発生した今回の地震では、小学4年生の女の子が崩れたブロック塀の下敷きになるなど、5人が死亡し、400人以上がけがをした。(以下、省略。)

3) 毎日小学生新聞 2018年6月30日土曜日
(原文は見出しが横書き、本文は写真の左脇に縦書き)

NEWS FILE

今月のニュースチェック

6月のポイント 崩れゆく安全神話
きになる3位 大阪で震度6弱
5人亡くなる(18日)

大阪の地震で倒れた学校のブロック塀。女の子が下敷きになり、亡くなった(写真省略)

3)では、6月のポイントとして、同じ地震の話題を取り上げる。しかし、出来事の詳細はない。ここは、「15歳のニュース」を担当するスタッフが、「きになる」記事を取り上げる。その中で、「きになる3位」として、塀をクローズアップする写真に、写真を解説するキャプションのように、少量の文「大阪の地震で(中略)亡くなった」が添えられる。この主旨は、点検ではなく、やはり、地震で犠牲者が出たこと、悲劇的な地震が発生したことである。

3. 1. 2. 文章の要約と振り仮名の消失

1)から3)まで、それぞれの記事の文字を計量した。すると、1)19日の記事は、文量が多かった。見出しを除くと49行、634字である。図は3つあり、写真が2枚、各地の震度を示す関西・四国・中国地方の地図が1枚である。事件についての詳細を報じる、という性質の記事である。

2)23日の記事は、地震についての記事は19行、297字である。地震のことと、全国小中学校にブロック塀の緊急点検を要請する記事が併記してあるが、地震の内容に注視する

と、振り仮名が減少している。「大阪」「震度」「犠牲」といった見出しや、「地震」「発生」など1)にあった振り仮名が消失している。振り仮名は、1)に出てこなかった固有名詞と、「震源」と、ブロック塀について書かれた部分のみだ。

3)30日の記事は、振り仮名が無い。文量は3行、34字である。見出しと合わせて読むことで、いつ、どこで、何が起こったのか、一つの記事として読み取れる。文章としては、かなり要約した内容になっている。

この3種の記事を比べると、同じ出来事について書かれているが、掲載日が後になるにつれて要約され短くなっているということ、さらに、要約された文章では振り仮名が消失するということがわかる。この変化から、書き手の態度を汲み取ることができるのではないだろうか。それは、記事が要約されていたり、振り仮名が消失したりすることは、同類の記事を繰り返している、という書き手の認識があるからこそ、要約や振り仮名の変化が生じる、という逆説的な説明が可能だからである。繰り返し読むことは、時事の話題を「復習している」と捉えることができるだろう。また、漢字の読み方では、既出漢字の振り仮名を消失させ、読み方を「学習した・習得した」あるいは、読み方を「知っていて当然の知識だ」として読み手の知識にゆだねる。読み手に知識の定着を求める（あるいは、強要すると言えるかもしれない）書き手の態度が浮かび上がる。

3. 2. 字種

日本語の表記法において、漢字は意味を表わす文字であり、表語文字や表意文字とすることがある⁷⁾。そして、漢字一字が持つ意味

または、その組み合わせ（熟語）によって、あるいは、漢字と別種の文字である、平仮名や片仮名や数字等との組み合わせによって音価が決まり、語や文が成り立つ。漢字は、意味を表わすという特性上、一字の持つ情報量が多く、さらに熟語になって複雑な意味を担ったり、文脈によって音価を変化させることがあったり、と使用法は難解である。

この漢字に比べ、単に音を表わす文字には平仮名と片仮名がある。これらは、音節文字と呼ばれ、いわゆるアルファベット (a, b, cなど) が子音や母音の一つを表わすのと異なり、音節 (a, ka, nなど) を表わす⁸⁾。平仮名は曲線の多い字形で、見た目には漢字と区別できる。そのため、漢字に後接する助詞や活用語尾などに用いて、漢字の意味を単語ごとに区別しやすくことができる（一語意識を生じさせる）。副詞や名詞の一部などに多い和語の表記にも使用される。

そして片仮名は、漢字の一部から形成した字形であるため、漢字より単純化した字形が特徴的である。音節を表わすが、とりわけ諸外国から取り入れた移入語（外来語）の表記に使う。

日本語そのものは、漢字、平仮名、片仮名という以上3種の文字に加え、アラビア数字やローマ字、符号などを使って表記するのであるが、主に使うのはこの3種である。しかも特徴的なこととして、字形という視覚的効果によって、その意味や働きを区別したり、単語としての区切りを区別したりできる。小学生新聞では、字形に加え、色、大きさ、フォントにより、意味や働き、単語の区切りを明示している。具体例を挙げる。

4) 朝日小学生新聞 2018年6月1日金曜日
被災地のホテル 生きていた【青色、大、明朝体】
九州豪雨被害 福岡の村に喜び【黒色、中、ゴシック体】
去年7月の九州北部豪雨で大きな被害を受けた福岡県東峰村の宝珠山川で、「壊滅状態」とみられていたホテルが少しずつ飛び交い始めていて、地元の人たちは喜んでいきます。(以下、省略)【黒色、小、明朝体】

5) 朝日小学生新聞 2018年6月6日水曜日
グアテマラで火山噴火【茶色、大、ゴシック体】
死者60人超、非常事態宣言【黒色、中、ゴシック体】
中央アメリカのグアテマラで3日、火山が噴火しました=写真。首都グアテマラ市から約40キロ南西にある、標高3763メートルのフエゴ山です。(以下、省略)【黒色、小、明朝体】

6) 朝日小学生新聞 2018年6月19日火曜日
大阪で震度6弱【青色、大、ゴシック体】
余震に注意しましょう【黒色、中、明朝体】
地震に詳しい東北大学災害科学国際研究所助教授の岡田真介さん(変動地形学)に今後の防災対策について聞きました。【黒色、小、ゴシック体】
一般的に1週間程度は余震や今回より大きな地震が起きる可能性があります。(以下、省略)【黒色、小、明朝体】

例示したもののうち、各例の1行目は、見出しとして区別できる色、大きさ、フォント

である。色、大きさ、フォントは、【 】内に示した。大と小の2種類の見出しがあった。本文は、黒色の明朝体である。ただし、6)のように、話題の出典や背景知識として知っておくべき事柄は、フォントがゴシック体となる。

3. 2. 1. 漢字

漢字は、漢語の名詞や活用する単語の語幹に使われる、意味を表わす字であった。4)では、日本の地名「九州」、一般名詞「被災地」、動詞「生(き)」、形容動詞「大(きな)」、副詞「少(し)」などで確認できる。

3. 2. 2. 平仮名

平仮名は助詞「(被災地)の(ホテル)」や活用する単語の活用語尾及び補助動詞「(生きていた)」、接尾辞「(人)たち」といった和語に使う。副詞や形容詞の和語にも使う。そのなかで、6)「くわしい」は漢字「詳(しい)」で表記することができる⁴⁾が、中学校で学ぶため、小学生対象の本紙では平仮名「くわしい」で表記しているのだろう。

3. 2. 3. 片仮名

外国の地名のうち、5)「(中央)アメリカ」「グアテマラ」「フエゴ(山)」は片仮名である。具体例には挙げていないが、「中国」や「韓国」のように、従来から漢字表記が一般的になっているものもある。また、外来語の「キロ」「メートル」のほか、4)「ホテル」が片仮名である。常用漢字1字で書ける動植物名は漢字で表記する⁴⁾ことができるが、中学校で学ぶ漢字であり、かつ、動植物名を片仮名書きにすることを通則とする用字用語集⁹⁾がある。

3. 3. 平仮名の増加

3. 3. 1. 文体と平仮名

漢字は、平仮名や片仮名に比べて画数が多い字がほとんどであり、画数が多い漢字ほど、複数の部位が組み合わさって、意味も複雑になる。平仮名や片仮名は、漢字に比べて一字に空間的な間が多く、画数は少なく、意味は一音を担い、単純である。この字形の違いとともに、字が表わす意味（または音）の違いは、小学生新聞に見た目による印象の違いをもたらしていると考えられる。記事の文末を注視すると、大人用と違って、記事の文体が「です・ます体」なのである。これを、大人用の「だ・である体」に書き換えるとすれば、次のようになる。

- 4') 喜んで^{よろこ}います。 → 喜んで^{よろこ}いる。
 5') フェゴ^{さん}山です。 → フェゴ^{さん}山だ。
 6') 聞き^きました。 → 聞き^きいた。
 6'') あり^あます。 → あり^ある。

上記の矢印「→」の左側が小学生新聞の抜粋、右側に筆者が書き換えた任意の「だ・である体」を示す。全てにおいて、平仮名の字数が減少する。小学生新聞では、「です・ます体」を用いることで、大人用に比べて平仮名の割合が増えており、結果的に漢字の割合は減少する。また、6)「くわしい」で示したように、小学校で学ぶ漢字以外は平仮名が使われる。これも、漢字の割合を減少させる。

漢字と平仮名の比率において、平仮名が増加することは、平仮名が有している空間的な間、読み方が単一である単純性といった特性から、柔らかさや読みの易しさ、親しみやすさを生じさせると考えられる。漢字ならば、文脈に応じて読み方を変化させなくてはならない。漢字の持つ難解さに比べれば、平仮名

が多いことは文章全体の易しさ、親しみやすさ、あるいは文体による丁寧さを含ませることになるのだ。

3. 3. 2. モダリティと平仮名

小学生新聞を大人用と比べると、文体のみならず、情報の量は減少するものの、述べ方が凝っている。ここで注目したい述べ方とは、書き手が読み手に向けた伝達態度（モダリティ）のことで、6)「注意しましょう」のように読み手へ呼びかけ、促すもののほか、クイズや手紙形式の記事には次のような終助詞が散見される。

7) 朝日小学生新聞 2018年6月19日火曜日
 おおせい なか
 大勢の中のあなたへ3 【黒色、大、書体風】

(前部、省略) スポーツを愛^{あい}するあなたなら、ふだんの生活^{せいかつ}にも「スポーツマンシップ」を心がけられるよね。【黒色、小、明朝体】

8) 朝日小学生新聞 2018年6月19日火曜日
 五・七・五クイズ 【オレンジ色と黒色、大、手書き風】

「七変化^{しちへんげ}」と書くよ。(中略) この呼び方^よがあるよ。【黒色、小、明朝体】

9) 朝日小学生新聞 2018年6月19日火曜日
 はいく
 俳句なるほど 【黒色、中、ゴシック体、背景が薄緑色】

あじさい
 紫陽花は、「てまりばな」「かたしろぐさ」とも呼ばれていたよ
 「よひら」などの言い方^いは俳句より和歌^わのほう^おに多いらしいわ

【黒色、小、丸ゴシック体、男児と女児の

イラストに付いた噴出しの中】

- 10) 朝日小学生新聞 2018年6月19日火曜日
空からのたより【青色、大、ゴシック体、
背景が薄水色】
このところ夕方^{ゆうがた}になっても外^{そと}がまだ明^{あか}
く、遊^{あそ}べる時間^{じかん}が長^{なが}くなったと感^{かん}じません
か。(以下、省略)【黒色、小、明朝体】

7) 「大勢の中のあなたへ3」は、手紙のやり取りをする、という形式の紙面である。読者が手紙を出し、記事の書き手がその手紙に答える。ここでは「スポーツを愛するあなたへ」宛てて、「スポーツマンシップ」とは何か、に答えている。末尾に終助詞「よね」を添えることで、「スポーツマンシップ」という書き手が持つ情報を伝えた後に、読み手が受け入れると見込まれる書き手の認識を示し確認している¹⁰⁾。

8) 「五・七・五クイズ」は、俳句に関するクイズで、季語となる「紫陽花」の別名の答えを解説している。答えは4つの選択肢から選ぶ形式で、「しちへんげ」と平仮名で書いてあったものを、「七変化」と漢字で書いて注意を喚起し、意味を詳説する文章へ続いていく。

9) 「俳句なるほど」は、上述の「五・七・五クイズ」に続く記事で、当該の終助詞を含む文は、男児「ゴーくん」と女兒「ナナちゃん」のイラストに付いた噴出しの中に書いてある。「呼ばれていたよ」で終わる一文が「ゴーくん」、「多いらしいわ」で終わる一文がナナちゃんの台詞であるように描かれる。「よ」は、読み手の既知情報に注意を喚起して、認識の変化を及ぼすように書き手の主張を強く訴えかける¹¹⁾。「わ」は、女性が使う

終助詞であるので、「ナナちゃん」に女性らしさを付加する意図があるものだと考えられる。

10) 「空からのたより」は、気象予報士が気象とともに変化する植物として「アサガオ」の開花時間を解説している。引用した例文は、冒頭の一文で、「感じませんか」と読者へ問いかけることで、本文へ誘導していく。

このように、平仮名で表記する終助詞は、その意味によって書き手の伝達態度を露わにする。伝達態度に書き手の存在が立ち現れ、記事へ誘導したり主張を強く訴えかけたりするのである。この点は、文体によって平仮名の比率が増すことで、見た目による親しみやすさをもたらされることとは異なる。終助詞は、平仮名による見た目ではなく、対面による話し言葉のような、そうした点での親しみやすさをもたらされる。

4. まとめ

小学生新聞は、見出しや本文に振り仮名があり、漢字の学習を促すことを見た。その振り仮名が消失するときに「学習した・習得した」あるいは、読み方を「知っていて当然の知識だ」という書き手の態度を露わにした。漢字使用においては、小学校で学習する教育漢字は漢字で表記し、一般紙で用いられる常用漢字であっても教育漢字に含まれなければ平仮名で表記しているものが見られた。

振り仮名ではない、文章のなかの平仮名に注目すると、一般紙との違いとして「です・ます体」を用いること、終助詞を伴う文体を使う、クイズや手紙形式の記事があることを指摘した。これらを漢字と平仮名との比率として見れば、平仮名の比率が増し、紙面に柔らかさ、易しさ、親しみやすさをもたらして

いるのではないかと考えた。その中でも、見た目の柔らかさをもたらすものと、書き手の伝達態度を汲み取る終助詞の意味によって柔らかさをもたらすものがあることを区別した。

以上、表記の精査から考察できるメディア特性には、書き手である大人の、子どもにとって「知っていて当然の知識だ」という教示法と、まずはとにかく読書(読字)へ誘うための表記法とによって生じていることを明らかにした。

5. おわりに

小学生は、読書においても情報収集能力においても発達途上にある。2. は「児童サービス論」のテキストを中心に述べた。ここで、2014年刊『児童サービス論 JLA図書館情報学テキストシリーズ3-6』及び、本論筆者が執筆を担当した2012年刊『読書で豊かな人間性を育む児童サービス論 実践図書館情報学シリーズ4』を参照したが、昨今、他出版社のテキストに子ども新聞や小学生新聞、NIEの記述は無い。小学生新聞の、図書館情報資源における資料性は、読書力及び、情報収集能力の観点から今後、検討を試みたい。というのも、SNSが発達する現代に、紙媒体で速報性を担保することは困難だ。それでも出版が続く小学生新聞は、全国的に無料の、一般紙に挟み込まれたり別刷りを添付されたりした週刊の子ども向け新聞が多いことから見ても、速報性とは別のところにその価値がある。地域性豊かな資料であり、また、NIEで紹介される事例にあるとおり、読書(読字)を習慣化する、大人とコミュニケーションできる時事情報を活用する、活用目的を意識して情報を取り出すなど、これからの図書館活用につながるものを秘めているように思

われる。

参考・引用文献・注

- 1) 「朝日小学生新聞」朝日学生新聞社 日刊 昭和42年5月12日第3種郵便物認可、6月1日(第16350号)～6月30日(第16378号)
- 2) 「毎日小学生新聞」毎日小学生新聞編集部 毎日新聞東京本社発行 日刊 昭和11年創刊 昭和20年11月13日第3種郵便物認可、6月1日(第28577号)～6月30日(第28605号)
- 3) 「読売KODOMO新聞」読売新聞東京本社発行 週刊 平成23年5月23日第3種郵便物認可 特別協力 小学館、5月31日(第377号)～6月28日(第381号)
- 4) 朝日新聞社用語幹事編『朝日新聞の用語の手引新版』朝日新聞出版、2015年
毎日新聞社編『毎日新聞用語集 改訂新版』毎日新聞社、2007年
読売新聞社著『読売新聞用字用語の手引 第5版』読売新聞社、2017年
- 5) 堀川照代編『児童サービス論 JLA図書館情報学テキストシリーズ3-6』日本図書館協会、2014年
難波博孝ほか編『読書で豊かな人間性を育む児童サービス論 実践図書館情報学シリーズ4』学芸図書、2012年、pp. 92-101
- 6) <https://nie.jp/> (2019年1月10日閲覧)
- 7) 河野六郎『文字論』三省堂、1994年、pp. 10-13
フロリアン・クルマス『文字の言語学—現代文字論入門』大修館書店、2014年、pp. 45-71
- 8) フロリアン・クルマス『文字の言語学—現代文字論入門』大修館書店、2014年、pp. 72-101
- 9) 共同通信社著『記者ハンドブック第13版 新聞用字用語集』共同通信社、2016年
- 10) 伊豆原英子「終助詞「よ」「よね」「ね」の総合的考察—「よね」のコミュニケーション機能の考察を軸に—」『名古屋大学日本語・日本文化論集』vol. 1、名古屋大学留学生センター、1993年、pp. 21-34
- 11) 伊豆原英子「終助詞「よ」「よね」「ね」再考」『愛知学院大学教養部紀要』51(2)、愛知学院大学、2003年、pp. 1-15